

Arcserve サイバー レジリエンス ストレージ サーバ

インストールおよびセットアップ ガイド

バージョン 1.0

arcserve®

リーガル ノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserveにより随時、変更または撤回されることがあります。

Arcserveの事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書はArcserveが知的財産権を有する機密情報であり、ユーザは(i)本書に関連するArcserveソフトウェアの使用について、Arcserveとユーザとの間で別途締結される契約により許可された以外の目的、または(ii)ユーザとArcserveとの間で別途締結された守秘義務により許可された以外の目的で本書を開示したり、本書を使用することはできません。

上記にかかわらず、本書で取り上げているソフトウェア製品(複数の場合あり)のライセンスを受けたユーザは、そのソフトウェアに関して社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成できます。ただしArcserveのすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザはArcserveに本書の全部または一部を複製したコピーをArcserveに返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCSERVEは本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、ARCSERVEはお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCSERVEがかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者はArcserveです。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212、52.227-14、52.227-19(c)(1) - (2)、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)、またはこれらの後継の条項で規定されている該当する制限に従うものとします。

© 2025 Arcserve(その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者に帰属します。

Arcserve へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題の解決に役立つ豊富なリソースを提供します。重要な製品情報に簡単にアクセスできます。

[Arcserve へのお問い合わせ](#)

Arcserve のサポート：

- Arcserve サポートの専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセスできます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース(KB) ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- 弊社のライブ チャット リンクを使用して、Arcserve サポート チームとすぐにリアルタイムで会話を始めることができます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- Arcserve グローバル ユーザ コミュニティでは、質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、他のユーザとの対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。

また、使用している Arcserve 製品に適したその他の有用なリソースにアクセスできます。

目次

第1章: 紹介	1
第2章: 概要	2
第3章: インストール前のチェックリスト	3
ハードウェア要件	4
最小ハードウェア要件	5
ハードウェア RAID 設定の要件	6
CRS RAID 設定の要件	7
ネットワーク要件	9
第4章: Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール方法	10
ISO ファイルのダウンロード	11
ブート可能メディアの作成	12
トラブルシューティング オプション	13
Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール	14
初期設定の完了	15
ストレージの設定	17
新しいバージョンの Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバへのアップグレード	23
インストール環境の復旧	25
既存のストレージプールのインポート	26
第5章: 追加ストレージの設定	27
プールへのディスクの追加	28
プール内のディスクの交換	29
第6章: ストレージアラート	31
アラートの電子メールの設定	32
アラートの設定	34
第7章: セキュリティとユーザ管理	35
ユーザ管理の設定	36
ユーザの作成	37
ユーザの更新	39
アクセスキーの作成	40
第8章: サポートとの連携	41
サポート バンドルのアップロード	42
サポートのリモート アクセスを有効にする	43
第9章: 一般的なエラーと問題	45

ルート シェルにアクセスできない	46
単一のディスクで作成されたプールにディスクを追加できない	47
再起動時のデバイス名の変更	48
データストアサイズの違い	49
CLI と UDP コンソールで表記が違う	50
ファイルシステム空き容量が正しくない	51
IP アドレス形式の期待値が不明確	52
間違ったキーを入力しても検証メッセージが表示されない	53
Admin/Superuser アカウントのパスワードをリセットできない	54
2 ディスクセットアップでプールの作成に失敗する	55
RAID レベルをカスタマイズできますか?	56
リビルド Arcserve サイバーレジリエンスストレージ	57
UDP のリビルド	58
セキュアブートが有効な状態で ISO を起動できない	59
アドホックスナップショットをインポートできないのはなぜですか?	60
ユーザは UDP のストレージ割り当て(使用容量および空き容量)レポートを確認 できますか?	61
logs コマンドが実行されている限り、ターミナルはタイムアウトしません	62
第10章: 付録	63
コマンド リファレンス	64

第1章: 紹介

Arcserve サイバーレジリエンスストレージは、既存の UDP 10.x インストールを補完し、データをサイバー攻撃から保護し、サイバーセキュリティコンプライアンスの整合性を維持するのに役立ちます。Arcserve サイバーレジリエンスストレージを使用すると、オンプレミスストレージエンドポイント上のデータストア全体のイミュータブルスナップショットを取得して、ランサムウェアやその他の脅威に対する保護を強化できます。

Arcserve サイバーレジリエンスストレージは、イミュータブルスナップショットを利用してデータを保護し、変更および回復を不可能な状態に保ち、以下を提供します。

- UDP の安全で占有量の少ないストレージ デスティネーション
- 不正な変更から保護されるイミュータブルスナップショットによるデータの整合性
- ソフトウェア RAID を使用する場合に CRS RAID ボリュームを作成するオプション

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバは、シェルまたは CRS CLI と呼ばれるコマンドライン インターフェース(CLI) を通じて管理されます。詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」を参照してください。

注: このドキュメントには、以下の略語が含まれています。

- **CRS:** Arcserve サイバーレジリエンスストレージ
- **CRS サーバ:** Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ
- **CRS データストア:** Arcserve サイバーレジリエンス データストア
- **CRS CLI:** Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ CLI

第2章: 概要

このマニュアルでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ(CRS サーバとも呼ばれる) のインストールとセットアップについての包括的なチュートリアルを提供します。以下について説明します。

- ハードウェアおよびネットワークの前提条件
- インストールの種類
- 初期設定
- ネットワークおよびストレージのセットアップ
- セキュリティとユーザ管理

このインストールガイドは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール、設定、および使用開始を支援することを目的としています。

第3章: インストール前のチェックリスト

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバをインストールして設定するための前提条件について説明します。以下の内容が含まれます。

ハードウェア要件	4
ネットワーク要件	9

ハードウェア要件

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストールと管理に関する推奨ハードウェア仕様について説明します。これには、CPU、メモリ、ストレージメディア、およびネットワークインターフェースに関する考慮事項が含まれます。

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのセットアップを検討する際は、以下の点に注意してください。

- データストレージは、いくつかのドライブ障害でもデータが失われないように冗長である必要があります。
- データストレージの冗長性を確保するには、ハードウェア RAID または CRS RAID を使用して、3 つ以上のディスクからソフトウェア RAID を作成します。

注：ハードウェア RAID とソフトウェア RAID の比較については、「[ソフトウェア RAID とハードウェア RAID](#)」を参照してください。

- Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバの現在のバージョンは、RedHat バージョン 9 64 ビット (x86_64) で認定されたハードウェアコンポーネントをサポートしています([リンク](#)を参照)。
- OS の冗長性を確保するには、ハードウェア RAID を使用します。

注：ハードウェア RAID はユーザ側で管理できます。

現在のバージョンの Arcserve サイバーレジリエンスストレージ は、3 種類のストレージ展開をサポートしています。

- OS およびデータストレージ用ハードウェア RAID
- OS 用ハードウェア RAID およびデータストレージ用複数ディスク
- OS 用単一ディスクとデータストレージ用複数ディスク

最小ハードウェア要件	5
ハードウェア RAID 設定の要件	6
CRS RAID 設定の要件	7

最小ハードウェア要件

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストールと管理に関する最小推奨ハードウェア仕様について説明します。

最小ハードウェア要件は以下のとおりです。

- オペレーティングシステムが検出可能な 2 つのディスクまたはボリューム
- オペレーティングシステムの最小ディスク容量 25 GB
- オペレーティングシステムとデータストア用の別々のディスク
- Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバの現在のバージョンは、RedHat バージョン 9 64 ビット (x86_64) で認定されたハードウェアコンポーネントをサポートしています([リンク](#)を参照)。

ハードウェア RAID 設定の要件

以下の表に、ハードウェア RAID 設定を使用する環境の要件を示します。

重要：以下の各 RAID 設定は、使用可能な容量、RAW ディスク容量、およびディスク数を組み合わせて作成されます。異なる組み合わせを使用して、同じ設定を作成できます。

RAW ディスクごとのサイズ (TB 単位)	RAID5 ボリュームの使用可能容量 (RAW ディスク 5 台使用時、3.2% パッファなし) (TB 単位)	物理 CPU	推奨 CPU コア (最小)	RAM (GB 単位、最小)
1	3.872	1	1	8
2	7.744	1	1	12
4	15.488	1	2	16
6	23.232	1	3	22
8	30.976	1	4	32
10	38.72	1	4	36
12	46.464	1	5	48
14	54.208	1	6	48
16	61.952	1	7	64
18	69.696	1	7	64
20	77.44	1	8	64
22	85.184	1	10	72
24	92.928	1	10	72
26	100.672	1	12	86
28	108.416	1	12	98
30	116.16	1	14	104
32	123.904	1	14	128
36	139.392	1	16	144

注：

- 環境にハードウェア RAID アダプタがある場合、Arcserve は CRS RAID の代わりにハードウェア RAID アダプタを使用することをお勧めします。
- Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバの現在のバージョンは、RedHat バージョン 9 64 ビット (x86_64) で認定されたハードウェアコンポーネントをサポートしています([リンク](#)を参照)。

CRS RAID 設定の要件

Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバは、他の従来の RAID アレイよりも CRS RAID 設定を使用します。これは、CRS RAID によりデータの整合性が向上し、RAID 5 の書き込みホールが排除され、ストレージ管理の柔軟性が向上するためです。

以下の表に、CRS RAID 設定を使用する環境の要件を示します。

重要：以下の各 RAID 設定は、使用可能な容量、RAW ディスク容量、およびディスク数を組み合わせて作成されます。異なる組み合わせを使用して、同じ設定を作成できます。

使用可能な ストレージ容 量 (TB) (3.2% バッ ファなし)	合計 RAW 容 量	ディスクご との RAW ディ スク容量*	ディ スク 数*	推奨 CPU コア	推奨 RAM(GB 単位)	物理 CPU の 最小数
1.936	3	1	3	1	6	1
3.872	6	2	3	1	7	1
7.744	12	4	3	1	10	1
11.616	18	6	3	2	13	1
15.488	24	8	3	2	16	1
19.36	30	10	3	2	19	1
23.232	36	12	3	3	22	1
30.976	48	16	3	4	28	1
34.848	54	18	3	4	31	1
38.72	60	20	3	4	34	1
46.464	72	24	3	5	39	1
54.208	84	28	3	6	45	1
61.952	96	32	3	7	51	1
69.696	108	36	3	7	57	1
77.44	100	20	5	8	63	1
92.928	120	24	5	10	74	1
108.416	140	28	5	11	86	1
123.904	160	32	5	13	97	1
139.392	180	36	5	14	109	1
162.624	196	28	7	17	126	1

注：

- ディスクを追加する前に、以前使用したファイルシステムが含まれていないことを確認してください。Arcserve では、新しいディスクまたは完全に消去されたディスクを使用することをお勧めします。
- バッファのデフォルト使用可能容量が少なくとも 3.2%(最小 128 MB、最大 128 GB) であることを確認します。
- バッファは、以下の理由で重要です。
 - ◆ プールのオーバーフィルとシステムの不安定性の防止
 - ◆ 削除、スナップショット、メタデータなどの重要な操作を完了できる
 - ◆ メタデータやスペースマップなどの内部構造をサポート

ネットワーク要件

Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバがUDP および RPS と通信するためのネットワーク要件は以下のとおりです。

- 少なくとも 1 枚のネットワークインターフェースカード (NIC)。ほとんどのインストールでは、これはイーサネット インターフェースで、DHCP (自動 IP 割り当て) 用に設定するか、静的 IP アドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNS を使用して手動で設定できます。
- サポートされているネットワークカード。「[RedHat Catalog](#)」を参照してください。
- 標準インストールの場合、セットアップ中にネットワークケーブルが接続され、インターフェースが有効になっていることを確認してください。
- セキュリティのために Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバがセグメント化されたネットワークに展開されている場合、追加のポートを開いて通信とデータ転送を有効にします。これらのポートにより、UDP と Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバの両方のセグメント化されたネットワーク間の通信が可能になります。

以下のポートが開いている必要があります。

- ◆ ポート番号 22 - Arcserve サポートがサポートトンネル経由でログインするためのアウトバウンド
- ◆ ポート番号 443 - 更新の確認およびインストールのためのアウトバウンド
- ◆ ポート番号 5000 ～ 5099 - インバウンド データトラフィック用

注:

- バージョン 1.0 では、ネットワーク結合はサポートされていません。
- Red Hat 9 Hardware Catalog のほとんどの標準ネットワークインターフェースカードは、バージョン 1.0 で動作します。今後のリリースで、SFP、SFP+、QSFP、QSFP48、および Fiber Channel HBA がサポートされる予定です。

第4章: Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール方法

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストールおよび設定に関する情報とベスト プラクティスについて説明します。また、サーバを設定し、定義された保存期間の間、データが安全かつ確実に変更されないようにする手順についても説明します。

重要: Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバをインストールまたは更新するとき、またはシステム時刻を同期するときは常に、システムがインターネットに接続されていることを確認してください。

具体的に、このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ISO ファイルのダウンロード	11
ブート可能メディアの作成	12
トラブルシューティング オプション	13
Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール	14
新しいバージョンの Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバへのアップグレード	23
インストール環境の復旧	25

ISO ファイルのダウンロード

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ ISO ファイルは、以下のいずれかの方法でダウンロードできます。

- クラウド コンソールで、**復旧ポイント サーバ** ページの **[アクション]** メニューから **試す** をクリックします。Arcserve サイバーレジリエンスストレージ トライアル ページが開きます。名前、会社情報、電子メールアドレスを入力し、**送信** をクリックします。Arcserve 営業チームからご連絡します。
- **サポート** ページを開きます。製品 から Arcserve CRS をクリックし、**Arcserve サイバーレジリエンスストレージのダウンロードリンク** をクリックします。
- UDP コンソールの **復旧ポイント サーバ** ページで、復旧ポイント サーバを右クリックし、メニューから **追加 Arcserve サイバーレジリエンス データストア** の横にある **試す** をクリックします。Arcserve サイバーレジリエンスストレージ トライアル ページが開きます。名前、会社情報、電子メールアドレスを入力し、**送信** をクリックします。Arcserve 営業チームからご連絡します。



ブート可能メディアの作成

一般的に利用可能なツールを使用して、Arcserve サイバーレジリエンス データ ストレージ サーバの ISO ファイルからブート可能メディアを作成できます。

注：ブート可能 USBドライブを作成するときに、ツールに DD モードまたは ISO モードのいずれかを選択するオプションが表示されている場合、DD モードを選択します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ サーバの ISO ファイルをダウンロードします。
2. 必要なツールを選択して、ブート可能メディアを作成します。
3. 目的のブート可能メディア(USBドライブ、DVD、またはブルーレイディスク)を挿入します。
重要：この操作により、リムーバブルメディア上のすべてのデータが消去されます。
4. ツールの指示に従って ISO ファイルとメディアを選択し、ブート可能メディアを作成します。

ブート可能メディアから起動するには、コンピュータを再起動し、ブートメニューからメディアを選択します。

トラブルシューティング オプション

インストーラの実行中にインストールのトラブルシューティングを行うには、以下の手順に従います。

- Ctrl + B + 1 キーを押す - メイン インストール ウィンドウに移動します。
- Ctrl + B + 2 キーを押す - シェルに移動します。
- Ctrl + B + 3 キーを押す - ログに移動します。
- Ctrl + B + 4 キーを押す - ストレージ ログに移動します。
- Ctrl + B + 5 キーを押す - プログラム ログに移動します。

注：ウィンドウを切り替えるには、Alt + Tab キーの組み合わせを使用します。

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストール

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバのインストールして初期設定を完了する方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. ブート可能メディアから ISO ファイルを起動します。
2. 表示されたオプションから、[Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ]を選択します。
インストーラに、オペレーティングシステムのインストールに使用できるディスクのリストが事前選択され表示されます。デフォルトで、最初に初期化されたディスクが選択されます。
3. 別のディスクを選択するには、いずれかのキーを押してカウントダウンを停止してから、ディスク番号を入力し、**Enter** キーを押して選択します。
インストーラは OS のインストールを完了し、シャットダウンします。
4. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバをオンにし、以下のデフォルト認証情報を使用してログインし、初期設定を完了します。
 - ユーザ名: *arcserve*
 - パスワード: *arcserve*

詳細については、「[初期設定の完了](#)」を参照してください。

初期設定の完了	15
ストレージの設定	17

初期設定の完了

このセクションでは、インストール後の Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバの初期設定について説明します。初期設定を完了するには、以下の手順が必要です。

- a. super admin アカウントの作成
- b. タイムゾーンの選択
- c. (オプション) ホスト名の変更
- d. (オプション) ネットワークインターフェースの変更
- e. (オプション) ストレージプールのセットアップ

注： 初期設定が中断された場合は、デフォルトの認証情報を使用して CLI にログインすると、中断したところから再開できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバを再起動します。
2. インストール後に初めて Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバにログインするには、ログインプロンプトで、ユーザ名とパスワードの両方に「arcserve」と入力し、**Enter** キーを押します。

注： これらの認証情報は、初期設定を完了すると削除されます。次のログイン時には、次の手順で作成する superadmin 認証情報を使用します。

3. Super Admin アカウントを作成してログインするには、ユーザ名とパスワードを入力し、プロンプトが表示されたらパスワードを確認して、**Enter** キーを押します。

注：

- パスワードは8文字以上で、大文字、小文字、数字が含まれている必要があります。
- パスワードのリセットオプションは、このアカウントでは使用できません。サポートが必要な場合は、Arcserve サポートにお問い合わせください。

4. Arcserve サイバーレジリエンスストレージシステムのタイムゾーンを設定するには、矢印キーを使用して利用可能なタイムゾーンを移動し、**Enter** キーを押して必要なタイムゾーンを選択します。

注： 目的のタイムゾーンがリストにない場合は、[UTC]を選択します。

5. ホスト名を変更するには、プロンプトで「Yes」と入力し、新しいホスト名を入力します。ホスト名を変更せずに続行するには、「No」と入力します。

注：ホスト名は、文字、数字、ハイフンを使用して1 ～ 64 文字で指定します。ハイフンで開始または終了できません。

6. ネットワークを変更するには、プロンプトが表示されたら「Yes」と入力して変更するネットワークインターフェースを選択し、ネットワーク方式として **[自動]** を選択します。ネットワークインターフェースを変更せずに続行するには、「No」と入力します。

DHCP が使用可能で、ネットワーク設定方式として優先する場合は、**[自動]** を選択します。

Arcserve サイバーレジリエンスストレージを展開するネットワークセグメントが DHCP をサポートしていない場合は、**[手動]** を選択します。以下の情報があることを確認します。

- 使用する IP アドレス(CIDR 表記のみを使用)
- デフォルト ゲートウェイ

7. 以下のいずれかを実行します。

- 初期ストレージプールを設定するには、プロンプトで「Yes」と入力し、以下を実行します。
 - a. 初期ストレージプールの名前を入力します。
 - b. RAID/ディスク設定を選択します。ソフトウェア CRS RAID のディスクを選択するには、矢印キーを使用して強調表示し、スペースバーを押します。追加するディスクごとに繰り返します。

注：新しい CRS RAID ボリュームを作成するには、少なくとも3つのディスクまたは1つのハードウェア RAID ディスクを選択します。サポートされている RAID 設定は、1 ディスクのハードウェア RAID 設定と3 ディスクのソフトウェア CRS RAID 設定です。

ストレージプールを作成せずに続行するには、「No」と入力します。後で CLI からプールを作成できます。詳細については、「[ストレージプールの作成](#)」を参照してください。

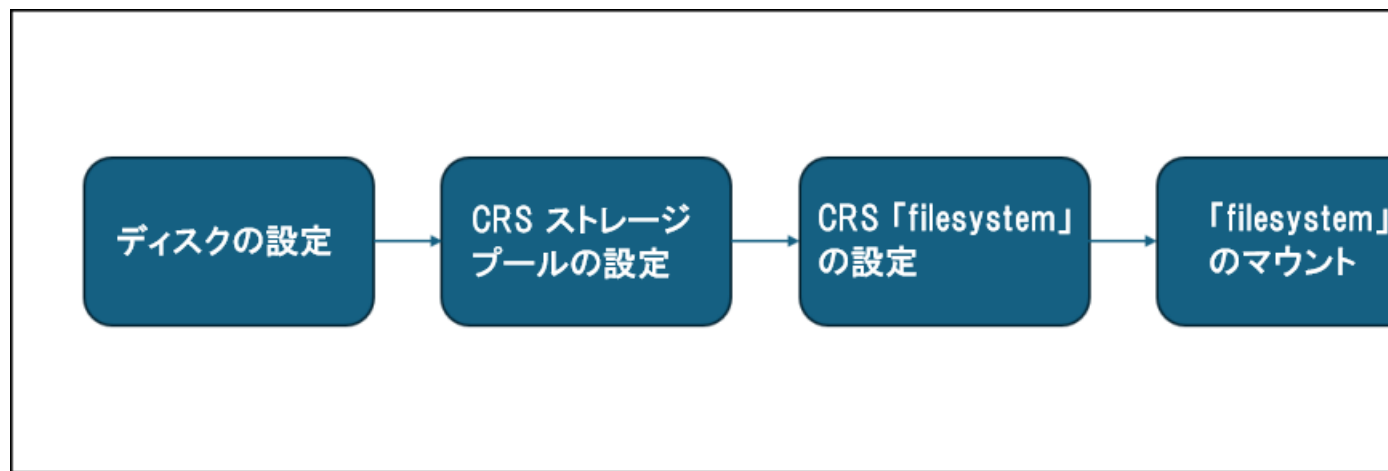
- インストールプロセスのリカバリ中に既存の非アクティブなストレージプールをインポートするには、「[既存のストレージプールのインポート](#)」を参照してください。

これで初期設定は完了です。

ストレージの設定

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバに追加のストレージを設定すると、不変性の保証を維持し、サービスの中断を回避し、既存のデータ構造およびアクセスポリシーとのシームレスな統合を実現できます。このプロセスには、システムの互換性、データの整合性、パフォーマンスへの影響、規制準拠に重点を置いて、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバでストレージを拡張するための重要な手順とベストプラクティスが含まれます。

以下の図は、UDP でストレージを設定するための一般的なプロセスワークフローを示しています。



命名規則

データセットやプールなど、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ コンポーネントに名前を付ける場合は、以下のルールに従ってください。

- コンポーネント名に使用できるのは英数字のみです。
- コンポーネント名には以下の特殊文字を含めることができます。
 - ◆ アンダースコア(_)
 - ◆ ハイフン(-)
 - ◆ コロン(:)
 - ◆ ピリオド(.)
- プール名は文字で始まる必要があり、以下の制限があります。
 - ◆ 使用できる文字は、英数字とアンダースコア(_)、ダッシュ(-)、ピリオド(.)のみです。
 - ◆ 開始シーケンス c[0-9] は使用できません。
 - ◆ log という名前は予約されています
 - ◆ mirror、raidz、raidz1、raidz2、raidz3、または spare で始まる名前は、予約されているため使用できません。
 - ◆ プール名にはパーセント記号(%)を使用することができません。
- データセット名は以下を使用できません。
 - ◆ 英数字で始まる
 - ◆ パーセント記号(%)を含む
- 空のコンポーネントは使用できません。

ストレージ プールの作成

このセクションでは、ディスクをプールに追加してストレージを作成する方法について説明します。

注：ソフトウェア RAID 設定では、少なくとも 3 つのディスクが必要です。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
disk list
```

既存のディスクのリストが表示されます。

3. 次に、以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
pool create [-h] -n NAME -d DISKS [DISKS ...] [-f | --force | --no-force]
```

各項目の説明

-n, --name

プールの名前。

-d, --disks

プールに追加するディスクの名前。

注：ディスク名をスペースで区切ることで、複数のディスクを追加できます。

-f, --force, --no-force

警告を無視してプールの作成を強制する。既存のディスクデータを上書きする可能性があります。

デフォルト：False

注：ディスクを追加するときに、以下のエラーが発生する場合があります。

- 「ディスクには既存のデータがあります。」
- 「ディスクは使用中ですが、不明なファイルシステムが含まれています。」
- 「異なるサイズのディスクが指定されています。プール内のすべてのディスクの使用量は、最小のディスクのサイズに制限されます。」

既存のデータを削除するには、以下のコマンドを使用します。

```
pool create --force
```

指定したディスク上にストレージ プールが作成されます。

プール関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[pool](#)」を参照してください

ファイルシステムの作成

このセクションでは、ファイルシステムの作成方法について説明します。

以下の手順に従います。

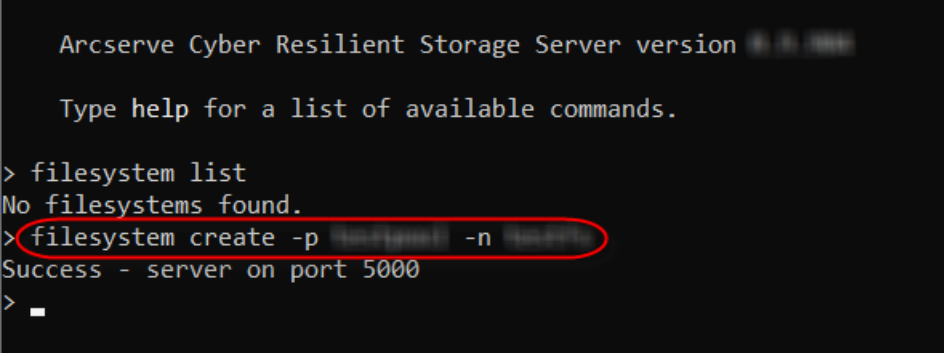
1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
filesystem list
```

既存のファイルシステムのリストが表示されます。

3. 次に、以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
filesystem create -p [POOL] -n [NAME]
```



```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 4.5.1000  
Type help for a list of available commands.  
> filesystem list  
No filesystems found.  
> filesystem create -p [pool] -n [name]  
Success - server on port 5000  
> █
```

各項目の説明

-p, --pool

プールの名前。

-n, --name

ファイルシステムの名前。

-m, --mount, --no-mount

作成後にファイルシステムをマウントする。

デフォルト：True

ファイルシステムが作成されます。

4. ファイルシステムが作成されたかどうかを確認するには、以下のコマンドを入力し、Enter キーを押します。

```
filesystem list
```

```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 4.5.1007

Type help for a list of available commands.

> filesystem list
POOL      FILESYSTEM      USED    FREE  MOUNTED  RPS  DATASTORE  PORT
-----
arcserve  filesystem1      30.6K   123.3G yes    -    -           5001
arcserve  filesystem2      29.3K   164.5G yes    -    -           5000
>
```

注：ファイルシステムに関連付けられたポート番号は、UDP およびクラウド コンソールで Arcserve サイバーレジリエンス データストアを追加またはインポートするときに使用されます。

ファイルシステム関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[filesystem](#)」を参照してください。

新しいバージョンの Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバへのアップグレード

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバを古いバージョンから最新バージョンにアップグレードする方法について説明します。

注：更新を続行する前に、すべてのプランおよびポリシーが一時停止/停止されていることを確認してください。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

update config show

チャンネルとタグが表示されます。

```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 1.0.42

Type help for a list of available commands.

> update config show
CHANNEL                                     TAG
https://downloads.arcserve.com/arcserve_family_products/crs  latest
> _
```

3. 以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

update check

利用可能な最新の更新がリストされます。

```
> update check
Updates available: version 0.9. is available for installation.
> _
```

4. 次に、以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

update install

更新後にシステムが再起動するというメッセージが表示されます。

5. 続行するかどうかを尋ねられたら、y キーを押し、次に Enter キーを押します。

```
> update install
The system will automatically reboot after updating.
Do you want to proceed? [y/n]: y
Rebooting node in 1 seconds _____ 80% 0:00:02
Broadcast message from root@10.10.10.10 (Fri 2025-06 16:30:00):

The system will reboot now!

Success
Connection to 10.10.10.10 closed by remote host.
Connection to 10.10.10.10 closed.
```

アップグレードが完了し、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ シェルが再起動します。

インストール環境の復旧

このセクションでは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバインストール環境の復旧を実行する方法について説明します。復旧は通常、システムクラッシュや OS 環境の破損、更新やインストールの失敗が発生した場合に実行されます。

重要: 環境、手順、および順序を正しく理解せずに復旧プロセスを開始すると、データが失われる可能性があります。Arcserve では、追加のサポートおよびガイドが必要な場合は、[サポート](#)にお問い合わせになることを強くお勧めします。

プロセスを完了するには、以下の手順が必要です。

1. オペレーティングシステムを再インストールします。詳細については、「[Arcserve サイバーレジリエンスストレージのインストール](#)」を参照してください。
2. 初期設定を完了します。詳細については、「[初期設定の完了](#)」を参照してください。
3. 既存のストレージプールをインポートします。詳細については、「[既存のストレージプールのインポート](#)」を参照してください。
4. ファイルシステムのマウント
5. 設定ファイルのリストア

注: 手順 4 と 5 については、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

既存のストレージプールのインポート	26
---	----

既存のストレージプールのインポート

このセクションでは、以前のインストールから既存の非アクティブなストレージプールをインポートするために必要な手順について説明します。既存のプールのインポートは、復旧プロセスの重要な手順であり、ユーザが既存のストレージおよびデータにアクセスできるようにします。

復旧プロセスの詳細については、[\[インストール環境の復旧\]](#)を参照してください。

以下の手順に従います。

1. 非アクティブなプールのインポートするように求められたら、「Yes」と入力し、**Enter** キーを押します。
非アクティブなプールのリストが表示されます。
2. 矢印キーを使用して移動し、スペースバーを押して必要なプールを選択します。
選択したプールがインポートされます。
3. プールがインポートされたことを確認するには、以下のコマンドを入力し、**Enter** キーを押します。

```
pool list
```

第5章: 追加ストレージの設定

インストールと初期設定が完了すると、Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバはデフォルト設定で完全に動作できるようになります。ただし、多くの展開では、複雑な環境をサポートしたり、パフォーマンスを向上させたり、特定の組織の要件を満たしたりするために、さらにカスタマイズが必要になる場合があります。

この章では、追加のストレージオプションを設定する方法について説明します。これらの設定は、セットアップの微調整、スケーラビリティの向上、またはシステムを既存のインフラストラクチャ標準との整合を求めるユーザーに推奨されます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

プールへのディスクの追加	28
プール内のディスクの交換	29

プールへのディスクの追加

このセクションでは、ディスクをプールに追加して追加のストレージを作成するために必要な手順について説明します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
disk list
```

既存のディスクのリストが表示されます。

3. ディスクを追加するには、以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
pool add-disk [-h] [-n POOL_NAME] -d DISK_NAME [DISK_NAME ...]
```

各項目の説明

-n, --pool-name

プールの名前。

-d, --disk-name

プールに追加するディスクの名前。

ディスクがプールに追加されます。再同期化プロセスが完了するまで待機し、以下のコマンドを使用して、プールが使用可能かどうかを確認します。

```
disk status
```

新しいディスクがプールに追加されたかどうかを確認するには、以下のコマンドを使用します。

```
disk list
```

注：新しいディスクをストレージプールに追加しても、すぐには使用できません。システムは、「再同期化」と呼ばれるプロセスを実行する必要があります。このプロセスでは、プール内の冗長性と整合性を確保するために、新しいディスクまたは交換されたディスク間でデータをコピーして検証します。データのサイズとハードウェアの速度によっては、このプロセスに時間がかかる場合があります。ストレージプールは、再同期化プロセスが正常に完了した場合にのみ完全に操作可能となり、安全に使用できるとみなされます。

プール関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[pool](#)」を参照してください。

プール内のディスクの交換

このセクションでは、ストレージ プール内のディスクを交換する手順について説明します。RAID アレイのストレージ ディスクは、通常、障害が発生した場合、またはまもなく障害が発生すると予測されるときに交換されます。

重要：プール内のディスクを交換するときは、RAID アレイに同じサイズのディスクが含まれていることが重要です。したがって、小さいディスクをより大きなストレージ容量のディスクと交換した場合でも、新しいディスクの容量はアレイ内の最小ディスクのサイズに制限されます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
disk list
```

既存のディスクのリストが表示されます。

3. ディスクを交換するには、以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
pool replace-disk [-h] -n POOL -o OLD_DISK -d NEW_DISK
```

各項目の説明

-n, --pool

置き換えるディスクを含むプールの名前。

-o, --old-disk

置き換えられる古いディスクの名前。

-d, --new-disk

古いディスクを置き換える新しいディスクの名前。

新しいディスクがプールに追加されたかどうかを確認するには、以下のコマンドを使用します。

```
pool list
```

注：ストレージ プール内の既存のディスクを交換しても、すぐには使用できません。システムは、「再同期化」と呼ばれるプロセスを実行する必要があります。このプロセスでは、プール内の冗長性と整合性を確立するために、新しいディスクまたは交換されたディスク間でデータをコピーして検証します。データのサイズとハードウェアの速度によっては、このプロセスに時間がかかる場合があります。ストレージ プールは、再同期化プロセスが正常に完了した場合にのみ完全に操作可能となり、安全に使用できるとみなされます。

プール関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[pool](#)」を参照してください。

第6章: ストレージ アラート

このセクションでは、ストレージ アラートの概要について説明します。

ストレージ アラートの設定は、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバの最適なパフォーマンスを維持するために不可欠です。これにより、容量の使用状況をプロアクティブに監視し、サービスの中断につながる可能性のある予期しないストレージの枯渇を回避できます。アラートは、ランサムウェアの試行やシステム障害などの潜在的な脅威を示す可能性のあるデータ増加、アクセス率、またはエラーログの異常なパターンを特定するのに役立ちます。Arcserve サイバーレジリエンスストレージはデータの変更や削除を防ぐように設計されているため、アラートは、アクセシビリティに影響を与えることなく、write-once-read-many (WORM) ポリシーが確実に適用します。また、アラートで使用状況の傾向をリアルタイムの分析情報を把握できるため、容量の計画を立てやすくなり、タイムリーなスケーリングやアーカイブアクションが可能になります。アラートは、一貫したパフォーマンスと規制遵守を確実に維持しながら、データの整合性を保護する、早期警告システムとして機能します。

アラートは、以下の問題をトリガできます。

- **storage-degraded:** これは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージが最適な状態で機能しなくなったが、まだ操作可能であることを示します。通常は、1 つ以上のコンポーネント(ディスクなど) に障害が発生したか、正常に機能していないことを意味し、冗長性が損なわれたり、パフォーマンスが低下したりします。
- **storage-error:** これは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージシステムで重大な障害または回復不可能なエラーが発生し、データの可用性または整合性に影響を与えた可能性があることを示します。
- **storage-state-changed:** ストレージシステムのステータスまたは設定が変更されたことを示します。ストレージシステム自体に問題がある場合とない場合があります。
- **system-clock:** これは、システムクロックまたは時間同期に問題または不一致があることを示します。これは、ストレージシステムおよび分散環境に影響を与える可能性があります。

アラートの電子メールの設定	32
アラートの設定	34

アラートの電子メールの設定

このセクションでは、アラートを受信するための電子メールアドレスの設定方法について説明します。

以下の手順に従います。:

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
email configure [-h] -H HOST [-P PORT] [-u USERNAME] [-n SENDER_
ADDRESS] [-s] [-t] [-x SUBJECT_PREFIX]
```

各項目の説明

-H, --host

SMTP サーバホスト名

-P, --port

SMTP サーバポート(デフォルト: *-ssl* または *-starttls* に基づいて
25、465、または 587)

-u, --username

SMTP サーバユーザ名

-n, --sender-address

送信者の電子メールアドレス(デフォルト: username)

-s, --ssl

初期接続を暗号化する

デフォルト: False

-t, --starttls

STARTTLS で接続をアップグレードする(*-ssl* が設定されている場合
は無視される)

デフォルト: False

-x, --subject-prefix

電子メールの件名行に追加するプレフィックス

プロンプトが表示されたら、SMTP サーバのパスワードを入力し、**Enter**
キーを押します。

```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 6.5.1007

Type help for a list of available commands.

> email configure -H smtp.office365.com -P 587 -u Administrator@arcserve.com -t
Enter SMTP server password:
Success
>
```

指定した電子メールアドレスは、電子メールアラートを受信するように設定されています。

電子メールの設定が機能するかどうかをテストするには、以下のコマンドを使用して受信者にテスト電子メールを送信します。

```
email test [-h] -r RECIPIENT_ADDRESS
```

各項目の説明

`-r, --recipient_address`

受信者の電子メールアドレス

電子メール関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンスガイド](#)」の「[Email](#)」を参照してください。

アラートの設定

このセクションでは、アラートを受信するための電子メールアドレスの設定方法について説明します。

以下の手順に従います。:

1. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
alert create [-h] -t TYPE -r RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]
```

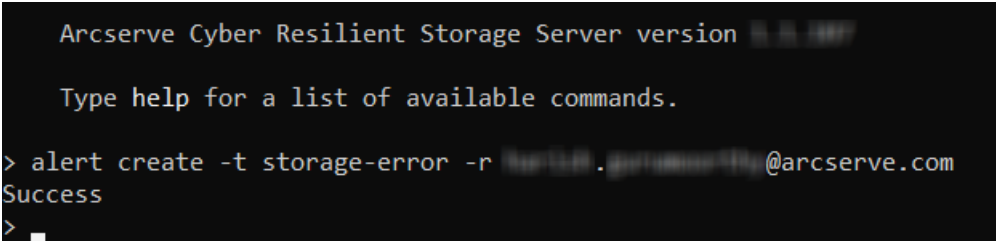
各項目の説明

-t, --type

アラートを作成する対象を入力する。詳細については、「[ストレージ アラート](#)」を参照してください。

-r, --recipients

アラートの受信者のリスト。



```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 9.5.1007

Type help for a list of available commands.

> alert create -t storage-error -r test@arcserve.com
Success
>
```

指定したアラートの種類が作成され、トリガされるたびに受信者に電子メールで通知されます。

alert コマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[Alert](#)」を参照してください。

第7章: セキュリティとユーザ管理

Arcserve サイバーレジリエンスストレージには、インストールを管理するための認証情報が2セットあります。

以下の表に、ユーザの種類とユーザが実行できる機能を示します。

ユーザの管理		データプレーン認証情報
CLIを使用した管理	CLIを使用した管理	データストア通信に AccessKeyID を使用
ユーザ	キー管理	データストアの作成
ユーザの役割変更	ネットワーク	データストアのインポート
キー	ストレージ	読み取り専用データストアを作成するためにスナップショットをマウント
ネットワーク	エンドポイント管理	-
ストレージ	-	-
ユーザ管理	-	-

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

ユーザ管理の設定	36
アクセスキーの作成	40

ユーザ管理の設定

このセクションでは、ユーザへの権限の作成、変更、および割り当てる方法について説明します。以下の内容が含まれます。

ユーザの作成	37
ユーザの更新	39

ユーザの作成

このセクションでは、権限を作成して新しいユーザに割り当てる方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

```
user list
```

既存のユーザのリストが表示されます。

3. 次に、以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
user create [-h] -u USERNAME [-r {admin,super_admin}]
```

各項目の説明

-u, --username

新しいアカウントのユーザ名。

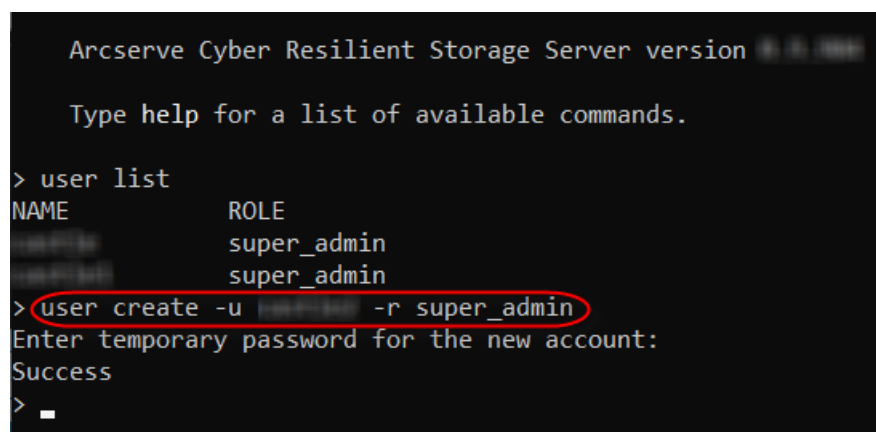
-r, --role

新しいアカウントの役割。可能な選択：admin、super_admin。

デフォルト：'admin'

ユーザの役割とその機能の詳細については、「[セキュリティとユーザ管理](#)」を参照してください。

4. プロンプトが表示されたら、新しいユーザのパスワードを入力し、Enter キーを押します。



```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 4.1.0.0
Type help for a list of available commands.

> user list
NAME                ROLE
super_admin         super_admin
super_admin         super_admin
> user create -u [redacted] -r super_admin
Enter temporary password for the new account:
Success
> _
```

新しいユーザが作成されます。

注：以下のコマンドは、ユーザを削除します。

```
user delete [-h] -u USERNAME
```

ユーザ関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[user](#)」を参照してください。

ユーザの更新

このセクションでは、ユーザを更新する方法について説明します。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで、以下のコマンドを入力します。

```
user list
```

既存のユーザのリストが表示されます。

3. 以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
user update [-h] -u USERNAME [-r {admin,super_admin}]
```

各項目の説明

-u, --username

変更するアカウントのユーザ名。

-r, --role

新しいアカウントの新しい役割。可能な選択：admin、super_admin

ユーザが更新されます。

```
Arcserve Cyber Resilient Storage Server version 6.6.0.0
Type help for a list of available commands.

> user list
NAME          ROLE
-----
castle2       super_admin
> user update -u castle2 -r admin
Success
> user list
NAME          ROLE
-----
castle2       admin
```

ユーザ関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[user](#)」を参照してください。

アクセス キーの作成

このセクションでは、アクセス キーの作成方法について説明します。このアクセス キーは、UDP およびクラウド コンソールで Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ アカウントを設定するときに使用されます。

詳細については、「[UDP ソリューション ガイド](#)」の「[サイバーレジリエンス ストレージ アカウントの追加](#)」を参照してください。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
key list
```

既存のキーのリストが表示されます。

3. 次に、以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。

```
key create [-h] -i ID [-c [COMMENT]]
```

各項目の説明

-i, --id

アクセス キーの識別子

-c, --comment

オプションのコメント

新しいキーが作成され、ID とシークレット アクセス キーが表示されます。キーをコピーして安全に保管します。

```
> key create -h
usage: key create [-h] -i ID [-c [COMMENT]]

options:
  -h, --help            show this help message and exit
  -i ID, --id ID        identifier for the access key
  -c [COMMENT], --comment [COMMENT] optional comment

> key create -i uidpwrsl -c "demo account for the demo"

ID          SECRET
uidpwrsl    L-xLgdzJ7ez4rUfCrThDHJSoCoJpxr5jA4_usEPrmEw

Make note of the secret above. This is the only time it will be shown.
>
```

キー関連のコマンドの詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」の「[key](#)」を参照してください。

第8章: サポートとの連携

このセクションでは、Arcserve サポートと連携してシステムのトラブルシューティングを行う方法について説明します。サポート チームと連携して問題を迅速に特定して解決することで、システムを復旧し、ダウンタイムを最小限に抑えることができます。

具体的に、このセクションには、以下のトピックが含まれます。

サポート バンドルのアップロード	42
サポートのリモート アクセスを有効にする	43

サポート バンドルのアップロード

このセクションでは、サポート バンドルを作成およびアップロードする方法について説明します。

サポートバンドルを生成すると、ログ、設定の詳細、その他の診断情報を安全に共有できるため、Arcserve サポート チームが問題を特定してすばやく解決するのに役立ちます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ サーバにログインします。
2. コマンド プロンプトで以下のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
support upload-bundle [-h] [-t TAG]
```

各項目の説明

`-t, --tag`

サポート バンドルを簡単に識別できるオプションのタグ。このタグは1つの文字列である必要があります。

注：デフォルトでは、バンドル名の先頭にタグが付き、その後にマシン名とサポート バンドルが生成された時間が続きます。タグを使用すると、バンドルを簡単に識別できます。

```
> support -h
usage: support [-h] {enable,upload-bundle} ...

Support management commands.

positional arguments:
  {enable,upload-bundle}
                        Support sub-commands
  enable               Enable remote access to this server for Arcserve support
  upload-bundle        Upload a support bundle for diagnosis.

options:
  -h, --help            show this help message and exit
> support upload-bundle -t 07022025_0702140203UTC_rrs
Uploaded support bundle 07022025_0702140203UTC_rrs.zip
>
```

サポート バンドルが作成され、リレー サーバにアップロードされます。Arcserve サポートはそこからバンドルにアクセスして読み取り、問題を診断して解決策を提供します。

以下の手順に従います

[illegible]

- support enable [-h] [-r RE] [AY] [-p PORT]

各項目の説明

11. サーバアドレスをト書きする (オプショナル)

デフ+ルト・"

11. サーバポートをト書きする(オプション)

デフォルト: 0

$$\left[\begin{array}{c} \bar{1} \\ \bar{2} \\ \bar{3} \end{array} \right] \text{---} \text{---} \text{---} \left[\begin{array}{c} \bar{1} \\ \bar{2} \\ \bar{3} \end{array} \right]$$

二の例では、 π^0 番号は 45150系、パズロは *film covers deasy hatch*

サポ。1. ヲ。バが接続されると、GLに以下のバグが表示されます。

「リモート サポート へのアクセスが開始されました。いつでも `Ctrl + C` キーを使用すると停止 できます。」

注：サポート アクセスを無効にした後、以下のコマンドを使用して、アプライアンスがロックされ、外部 ユーザへのアクセスが制限されていることを確認します。

`support enable [-h] [-r RELAY] [-p PORT]`

第9章: 一般的なエラーと問題

この章では、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバの展開または管理時に発生する一般的なエラーと問題について説明します。具体的には、以下のトピックについて説明します。

ルート シェルにアクセスできない	46
単一のディスクで作成されたプールにディスクを追加できない	47
再起動時のデバイス名の変更	48
データストアサイズの違い	49
CLI と UDP コンソールで表記が違う	50
ファイルシステム空き容量が正しくない	51
IP アドレス形式の期待値が不明確	52
間違ったキーを入力しても検証メッセージが表示されない	53
Admin/Superuser アカウントのパスワードをリセットできない	54
2 ディスクセットアップでプールの作成に失敗する	55
RAID レベルをカスタマイズできますか?	56
リビルド Arcserve サイバーレジリエンスストレージ	57
UDP のリビルド	58
セキュアブートが有効な状態で ISO を起動できない	59
アドホック スナップショットをインポートできないのはなぜですか?	60
ユーザは UDP のストレージ割り当て(使用容量および空き容量)レポートを確認できますか?	61
logs コマンドが実行されている限り、ターミナルはタイムアウトしません	62

ルート シェルにアクセスできない

現象

管理者またはスーパーユーザアカウントからルート シェルにアクセスできません。これらの両方のアカウントには、システムの管理およびトラブルシューティングに使用できるコマンドが制限されています。

解決策

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ CLI で使用可能なコマンドのみを使用できます。CLI の範囲外のコマンドについては、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

単一のディスクで作成されたプールにディスクを追加できない

現象

デフォルト プールを削除した後、新しいプールを作成し、ディスクを1つ追加しました。別のディスクを追加しようとすると、ユーザに以下のエラーが表示されます。

「ディスクの追加に失敗しました。エラー: 単一のディスクで作成されたプールにディスクを追加できません。」

解決策

Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバは、単一ディスク(初期)プールへのディスクの追加はサポートしていません。

再起動時のデバイス名の変更

現象

デバイス名、特に OS ドライブのパーティション名は、再起動のたび変更されます。

解決策

デバイス番号はブート プロセス中に動的に割り当てられ、デバイスが検出される順序は異なる場合があります。Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバはデバイス GUID に依存しています。

データストアサイズの違い

現象

同じデータストアがUDP コンソールと Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバで異なるサイズが表示されます。

解決策

Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバ v1.0 の場合、すべてのストレージレポートは CLI からのみ行われます。

CLI と UDP コンソールで表記が違う

現象

UDP コンソールと CLI でアクセス キーの表記が異なるのはなぜですか？

解決策

アクセス キーは Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ CLI では ID と呼ばれますが、UDP コンソールではアクセス キーと呼ばれます。

ファイルシステム空き容量が正しくない

現象

より大きな容量のディスクを RAID アレイに追加すると、空き容量コマンドはより大きなディスク容量を考慮せず、誤った情報を表示します。

解決策

新しいディスクの容量が既存のディスクよりも小さい場合、システムはエラーをスローします。ディスク容量がプール内の他のディスクの容量よりも大きい場合は、既存のディスクのサイズのみが使用されます。これは、RAID アレイの正常な動作です。

IP アドレス形式の期待値が不明確

現象

IP アドレス形式の期待値が明確でないため、ユーザは操作を続行できません。マスクが必要であることを認識していないためです。

解決策

IP アドレスはマスクされるように CIDR 形式で入力する必要があります。

間違ったキーを入力しても検証メッセージが表示されない

現象

UDPに Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ アカウントを追加するときに、間違ったキーを入力しても検証メッセージが表示されません。システムは、キーの有効性に関係なく設定を受け入れて保存します。

解決策

これは、Arcserve サイバーレジリエンス ストレージ v1.0 の既知の制限です。

Admin/Superuser アカウントのパスワードをリセットできない

現象

ユーザがログインパスワードを忘れた場合、admin/superuser アカウントのパスワードをリセットできません。

解決策

ユーザが自分でパスワードをリセットすることはできません。修復インストールを行うには、[Arcserve サポート](#)にお問い合わせください。

2 ディスク セットアップでプールの作成に失敗する

現象

2 ディスク セットアップでプール作成が失敗し、「ミラー冗長性がサポートされていません」というエラーが発生します。

解決策

これは Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ v1.0 の正常な動作です。

RAID レベルをカスタマイズできますか?

現象

Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバでは、プールの作成時に使用する RAID (RAIDZ1 / 2/3) をユーザが決定できますか?

解決策

3 つ以上のディスクでプールを設定する場合、Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバ v1.0 では RAIDZ1 のみを使用できます。

リビルド Arcserve サイバーレジリエンスストレージ

インストールが動作しなくなった場合、または OS ディスクのハードウェア障害またはその他のオペレーティングシステムの問題が原因で起動できない場合、データストアディスクが分離されている場合は、いつでも修復インストールを実行して Arcserve サイバーレジリエンスストレージ ボックスをリビルドできます。

詳細については、「[インストール環境の復旧](#)」を参照してください。

UDP のリビルド

UDP RPS サーバがクラッシュしても Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバが破損していない場合は、データストアのインポート オプションを使用してデータストアを再作成できます。UDP をリビルドするには、以下の手順に従います。

- UDP を再インストールする
- 新しいアクセスキー ID/シークレット キーの組み合わせを作成する
- UDP サーバで新しい認証プロファイルを作成する
- 新しい認証プロファイルを使用して、既存のプール、ファイルシステム、およびポートを指定して、データストアをインポートする

詳細については、「[UDP ソリューションガイド](#)」を参照してください。

セキュアブートが有効な状態で ISO を起動できない

現象

セキュアブートが有効な場合、ISO は起動しません。PXE ブート モードになります。

解決策

セキュアブートは、Arcserve サイバーレジリエンスストレージ v1.0 ではサポートされていません。

アドホック スナップショットをインポートできないのはなぜですか?

現象

作成したアドホック スナップショットをインポートできず、ログにそのレコードが表示されないのはなぜですか?

解決策

Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ v1.0 では、読み取り専用データストアとしてのみスナップショットをインポートできます。通常のスナップショット(読み取り/書き込み)のインポートは、UDP およびクラウド コンソールの [スナップショットの表示] リスト ウィンドウからのみ機能します。

ユーザは UDP のストレージ割り当て(使用容量および空き容量)レポートを確認できますか?

現象

ユーザは UDP でストレージ割り当てレポートを確認できますか?

解決策

すべてのストレージレポートは Arcserve サイバーレジリエンスストレージサーバ CLI からのみ行われます。

logs コマンドが実行されている限り、ターミナルはタイムアウトしません

現象

logs コマンドが実行されている限り、ターミナルはタイムアウトしません。

解決策

これは Arcserve サイバーレジリエンスストレージ サーバ v1.0 の正常な動作です。

第10章: 付録

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

コマンド リファレンス	64
-----------------------------	----

コマンド リファレンス

Arcserve サイバーレジリエンス ストレージドキュメントには、コマンド リファレンス ガイドも含まれています。このガイドには、使用可能なシェルコマンドのリスト、構文、説明が記載されています。詳細については、「[コマンド リファレンス ガイド](#)」を参照してください。